

42 破天荒

創刊
第二十九号

令和
元年度版

修学旅行無事終了

三学期は、朝まるで台風を迎えるような暴風のため、休校からのスタートでした。変則的な日程で、翌日に始業式を行い、実力審査に取り組みました。休む間もなく、一月進研模試をこなして、十四日（火）～十七日（金）の日程で、無事修学旅行を終えることができました。

保護者の皆様へ

修学旅行直前では、一月七日（火）平日早朝の大荷物発送を皮切りに、出発までの生徒達の体調管理の徹底を、十四日（火）の早朝出発に際しては、どのご家庭も相生駅・姫路駅への送りを、そして、十七日（金）の遅い時間の迎え等、様々な場面でご負担をおかけしました。
ひとえに、本校・本年の教育活動へのご理解・ご協力をいただけたお陰で、四十二回生一人一人が高校時代のかけがえのない思い出を手にすることができました。あらためて、お礼を申し上げます。ありがとうございます。
残念ながら、諸事情で四十二回生全員が北海道に行くことができたわけではありません。しかし、その生徒達もまた、修学旅行の期間、約束通り学校に登校して、それぞれの修学旅行を全うしてくれたこともまた、修学旅行をきつかけの一つとして、四十二回生がこの先輝けるのではないかと信じています。

なお、修学旅行前には、本校の食堂の方から次の言葉をいただいております。結団式では生徒にも紹介しました。

「相高の生徒は、こちらが恥ずかしくなるくらい気持ちよく挨拶してくれる。食堂の床が汚れたりしたら、放っておかずに、片付けるから雑巾を貸して欲しい、という風にみんなを使う場所を大事にしてくれる。」

四十二回生が該当してはいないかもしれないけれど、四十二回生もその一員になれたら、と話しました。

修学旅行中、富良野演劇工場・ホテル・看護師さんなどからいただいた言葉です。

「相高生の先輩の印象は大変良い。だから、目の前の生徒さんたちも、きっと楽しいプログラムを演じてくれる」(前)

「期待通り、期待以上でした。楽しかった。」(後)

「こんなに楽しませてもらってよかったのかな、と思う」(富良野演劇工場長)

「何かあった生徒さんを世話するのは仕事なのに、後からその生徒さんたちにこんなにお礼を言われたことはない」(現地でお世話になった看護師さん)

その他、お世話になった東武トップアースの皆さんからも多くの場面でお褒めの言葉をいただきました。

生徒の皆さんへ

これらは、早い時期から皆さんの安全・主体性を第一に考えて、修学旅行担当の先生を中心に、担任・学年の先生方が、何度も何度も紙面上で修学旅行に行き、緻密に準備を進めた計画を、皆さんが理解し、責任を持って行動して得た成果です。
時間を守る・時間を作る・時間的余裕を生み出すことでどんなことを感じたか。いま一度、スキー班長・生活代表班長等、会議に参加した者から、その行動で得た感覚を、日々の学校生活の中で大いに発信してもらいたいと思います。

集団として、まさに

「やってできた」ことを

「やればできるんじゃないか」

「手にしたいからやろうじゃないか」

ができる集団に、さらに成長してもらいたい。

日々の授業の中で、数多くそれを感じさせて下さい。

前文お話し下さい。
修学旅行では、4日間 お世話になりました。
生徒様にとって 北海道の良い思い出を作っていたらいいと思います。行程中は、生徒様をはじめ先生方にも何かとご配慮いただきとても楽しく過ごすことができました。私自身、この修学旅行を通して貴重な経験もさせていただき、大いなる思い出を作らせていただきました。後になりましたが行程中は至らない点や不備などがあつたかと思いますが本当にありがとうございました。北海道から皆様の健康を願っております。

現地看護師
中村さんより



生活班長会議

なんと10分前には会議を始めることができました。
おかげで、他の部屋の生徒に余裕を持った連絡ができました。

宿泊先のザ・タワーを背に

三日間、いや最終日までほぼこの素晴らしい陽光を浴びて、良いスキー実習、札幌・小樽研修を行うことができました。



さて、一つの終わりは、次の始まりです。四十二回生が喜び一杯に北海道から帰ってきた翌日・翌々日には、四十一回生を主とした相生高校の大学入試センター試験でもありました。

あと一年後

とことん楽しんだ後に、自分とどれだけ厳しく向かい合って、自分を鍛え抜くことができるか。鍛えたことをどう数字・結果に変えていくか。その数字と本気で向かい合う覚悟を、自分の中にどう育てていくか。
いよいよ、自らの進路を

「絵空事・霧の中でぼやけているもの」から

強い意志で、
「夢」

「夢から目標」

「目標から手にすべきもの」

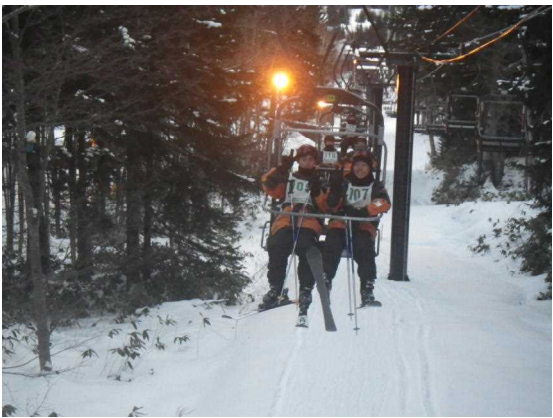
にする闘いを始めよう。

生徒の捉え方

2020.1.22

42 回生 修学旅行 事後アンケート 集計結果

	40回生	41回生	42回生
I 旅行全般について			
1. 修学旅行は全般的に			
①楽しかった(満足)	98%	97%	97%
②どちらとも言えない	2%	3%	3%
③楽しくなかった(不満足)	0%	0%	0%
2. 宿舎内の生活は			
①快適だった	92%	89%	93%
②どちらとも言えない	8%	11%	6%
③悪かった	0%	0%	1%
3. ホテルの食事は			
①良かった(満足)	94%	93%	92%
②どちらとも言えない	5%	7%	7%
③悪かった(不満足)	1%	0%	2%
4. 旅行中の体調は			
①良かった(満足)	88%	87%	88%
②どちらとも言えない	8%	12%	10%
③悪かった	2%	1%	0%
④けがをしてしまった	2%	1%	2%
5. 旅行中は生活規律を			
①よく守れた	78%	66%	88%
②そこそこ守れた	22%	34%	11%
③守れなかった	0%	0%	1%
6. 係としての任務は			
①よく果たせた	66%	74%	63%
②そこそこ果たせた	14%	16%	17%
③果たせなかった	0%	2%	1%
④係はなかった	20%	8%	19%
7. 「しおり」による準備は			
①完全だった	91%	76%	82%
②どちらとも言えない	7%	23%	17%
③不完全だった	2%	1%	0%
8. 私服の着用は			
①良かった(満足)	88%	94%	92%
②どちらとも言えない	10%	6%	8%
③悪かった(不満足)	2%	0%	0%
9. 準備のために使った費用は			
① 0円～5000円	15%	10%	12%
② 5001円～10000円	29%	28%	35%
③ 10001円～15000円	23%	27%	24%
④ 15001円～20000円	18%	12%	14%
⑤ 20001円以上	15%	22%	16%
10. 旅行中に使った小遣いは			
① 0円～5000円	4%	4%	2%
② 5001円～10000円	21%	19%	31%
③ 10001円～15000円	43%	31%	44%
④ 15001円～20000円	24%	31%	17%
⑤ 20001円以上	8%	14%	5%
II スキー講習について			
11. これまでのスキー/スノボ経験は			
①一度もない(初心者)	49%	64%	64%
②1～3回	34%	19%	20%
③4～6回	5%	9%	7%
④7回以上	12%	8%	9%
12. スキー/スノボ実習は全般的に			
①楽しかった(満足)	92%	93%	94%
②どちらとも言えない	7%	5%	6%
③悪かった(不満足)	1%	2%	1%
13. インストラクターの指導は			
①良かった(満足)	92%	89%	88%
②どちらとも言えない	6%	10%	11%
③悪かった(不満足)	2%	1%	1%
14. 一回あたりの講習時間は			
①短かった	14%	23%	12%
②ちょうど良かった	80%	67%	67%
③長かった	6%	10%	20%
15. スキー/スノボ講習全体の時間は			
①短かった	30%	33%	17%
②ちょうど良かった	59%	54%	59%
③長かった	11%	12%	24%
16. スキー/スノボの上達度は			
①上手くなった	95%	92%	96%
②あまり変わらない	4%	8%	4%
③下手になった	1%	0%	0%
17. 今後、機会があれば			
①またスキーがしたい	90%	91%	91%
②もうスキーはしたくない	4%	4%	1%
③わからない	6%	5%	8%
18. ナイターは			
①良かった(楽しい)	89%	60%	85%
②どちらとも言えない	6%	16%	7%
③悪かった(不満足)	2%	6%	0%
④参加してほしくない	3%	17%	7%
19. 札幌・小樽研修は			
①良かった(楽しい)	97%	93%	88%
②どちらとも言えない	3%	7%	11%
③悪かった(楽しくない)	0%	0%	1%
20. 札幌・小樽研修の時間は			
①短かった	51%	47%	89%
②ちょうど良かった	46%	51%	10%
③長かった	2%	3%	1%
21. コミュニケーション研修は			
①良かった(楽しい)			88%
②どちらとも言えない			12%
③悪かった(楽しくない)			0%
22. コミュニケーション研修の時間は			
①短かった			12%
②ちょうど良かった			72%
③長かった			16%
III 研修について			
23. その他気づいたことを裏に記入して下さい			
・初日の日程が過密すぎる(5)			
・班別自主研修が短い(4)			
・持ち物にカイロの記載があった方がよい(3)			
・スキー3日は長い(1)			
・4泊5日が良かった(1)			
・スキーは怖い(1)			
・スキーの班を途中で組み直してほしい(1)			
・班別自主研修を楽しむことができない(1)			
・スキー以外のスポーツもしたかった(1)			
事後アンケート 記述事項			
4. 旅行中の体調は(理由)			
スキーでの怪我(2)			
コミュニケーションプロでの怪我(1)			
めばちこ(1)			
9. 準備のために使った費用は(主な用途)			
衣類(130), 靴(23), 土産(5), 日用品(4), 靴(4), 時計(1), 菓子(1)			
10. 旅行中に使った小遣いは(主な用途は)			
土産(141), 飲食代(29), 交通費(9), 菓子(2), 日用品(1)			



1 組女子

スキーや研修、ホテルの部屋やご飯を食べるときのメンバーで色々なクラスメイトと関わることができた。友達の新たな一面が見ることが出来て、より仲を深めることができたのでとても嬉しく思う。私が体調を崩した時には心配してくれたり、声をかけてくれたりとても嬉しい気持ちになった。そのおかげで、皆と仲を深めることができたし、自分からも体調を崩した子や怪我をした子を見かけた時は、すぐに声をかけることが出来た。スキーは初心者で、上手く滑ることができなかったときに、同じ班のメンバーが応援してくれたので、とても励みになった。研修では、初めて通る道だったり、初めて行く駅ばかりでとても不安を感じていたけど、皆で協力して無事辿り着くことが出来たし、とても楽しい時間を過ごすことができた。行事の中で一番の思い出になったし、きっとこの思い出は忘れないと思う。

1 組男子

今回の修学旅行は残念ながら42回生の全員で参加することができませんでしたが、それぞれ個人個人がこの期間にやるべきことをして、全員でこの42回生の修学旅行という大きな行事を終わらせることが出来たのは本当に良かったと思います。一人一人が小さなことでも規則を守ったことによって、大きな問題が出ることもなく終えることができたのだと思います。また、198人という大きな集団が予定通りに行動するには一人一人の意識を持つことがどれほど大切なのかということが分かりました。一人でも気を抜いて時間に遅れたりすると、所属している団体の全員に迷惑をかけることになり、ささいなことからでもお互いに注意しあって、全員でまとまって行動することにより、集団というものが成り立っているということがよく分かりました。そして、この経験を次の学校行事でも生かせることの出来るようにしていきたいと思います。

2 組女子

初めてのことが多く、とても不安で一杯のスタートでしたがとても楽しく過ごすことができました。修学旅行を通して 2 つのことを学びました。1 つ目はいつも私を支えてくれている周りの方々に感謝の気持ちを伝えなければいけないということです。こうして無事に行って帰ってくることができたのは両親や先生方が準備してくれたからであり、スキーを楽しむことができたのはインストラクターの方や友達がいってくれたからだと思います。当たり前のことのように感じるのではなく感謝の気持ちを忘れずに言葉や行動で表していこうと思います。2 つ目は誰かのために自分のできることをたくさんすることの大切さです。先を考えて行動することで後から空いた時間でさらに次のことができたり、周りの人が楽をすることができるなど良いことばかりです。計画を立てるときにもそれらが言えると思います。修学旅行で学んだことを忘れず受験勉強に活かし努力したいです。

2 組男子

今回の修学旅行を振り返って思うことは、間違いなく人生で一番の思い出になった。初めて 200 人近い集団で、3 泊 4 日という期間を共に過ごした。集団で行動する上で大切なことにいくつか気付かされた。まず 1 つ目に、ルールを守ることだ。集団を乱す一番の理由は 1 人のルール破りだと改めて分かった。今回自分はルール通り動けたため、そこは良い点だと思う。2 つ目は相手のことを考えた上での言動が大事だと分かった。集団で過ごすと、他人と自分の違いがでてくるが、他人の苦しい面や、自分の苦しい面を理解した上で、サポートし、自分なら迷惑にならないよう早めの行動や、いつも以上に気を遣うことを意識するようにしようと思った。これらの事をこれからの学校生活に役立てていこうと思う。



3 組女子

初めは四日間も保健係嫌だなあって思っていたけれど、役割を果たしていく中で楽しみに変わっていき 4 日間がとてもはやく過ぎて行きました。スキーも同様に思っていたけれどインストラクターさんが凄く優しくて、チャレンジすることを恐れる瞬間を作らせない情熱ある指導をしてくださったおかげで、初心者で止まり方すら分らなかった私でも急な斜面をストックなしで滑れるまでになって約 15 時間程のスキー研修が本当に短く感じました。札幌自主研修では、びっくりする時計台などと言われているのですが私はむしろ、明治初期から姿を変えることなくあのような大都会にあることに感動しました。全然雪がなくて、観光するには都合が良かったけれど、その反面で、雪まつりなどができるのはいかがでしょうかになりました。雪が少ないのも、マイナスではあったけれど気温が例年よりも高いのも全部地球温暖化が関わっているのかと気になりました。

3 組男子

修学旅行前、僕は正直本当に楽しめるかどうか心配でした。なぜならこれまでスキーをしたこともありませんでしたし、北海道についての知識もあまりなかったからです。だからこそ、修学旅行でスキーをすると聞いた時は少しがっかりしていました。実際北海道に行き、1 日目初めてスキーをした時もうまく滑ることができず 3 日間で本当に滑れるようになるのかと考えていました。しかし 2 日目からインストラクターの方のご指導のおかげで滑れるようになりスキーがとても楽しく感じるようになりました。今回、スキー体験を通し大切なことを学びました。それは自分が苦しいことでも諦めずに努力し続ければ、それが出来るようになった時のすごい喜びを得られると共に、嫌いだったものが好きになれるということです。これは勉強においても同じだと思います。このようなことを学べた 4 日間はとても充実したものでした。

4 組男子

今回の修学旅行を通じて、初めてのことがたくさんあることを学ぶことができました。初めての北海道、初めての飛行機、スキーをすることも初めてでした。初めてのことで不安なことばかりでしたが、それを吹き飛ばしてくれるくらい楽しいことばかりでした。まず、コミュニケーションプログラムでは、今までに話したことのない人や、関わりを持つことがなかった人と話したりできて、コミュニケーション能力が少し深まった気がします。スキー講習では転ぶことばかりでしたが最終日には、ほとんど転ぶこともなくなり、滑ることができてよかったです。自分が成長したことを実感できたので、とても大きな経験になったと思います。また、外国の方と英語で会話する機会もあったので、それもとても良い経験になったと思います。今回の修学旅行で経験したことは、これからも生かすことができると思うので、生かせるようにしようと思います。

4 組女子

今回の修学旅行を通して、学校生活では学ぶことのできない、周りの支え合いの大切さや、コミュニケーションをとって、自ら行動することの難しさを、身をもって学べたように思います。スキー実習や小樽の班別自主研修だけでなく、コミュニケーションプログラムもあり、これからの生活のなかで、特に大事になってくる部分でも成長できました。この学年のメンバーで、いい思い出を増やせたいし、人として成長でき、充実した 3 泊 4 日になりました。良かった部分も多かったですが、もっと早い段階で、積極的に自分の意見を言えるようになっていけると、良かったと思います。学校行事の一つである修学旅行を、大きな怪我なく、無事に終えることができたのは、この学年の 1 人 1 人の、意識の高い行動があったからだだと思います。反省点も踏まえ、成長し続けていきたいと思っています。最高の 3 泊 4 日になって、本当に良かったです。



5 組男子

私は修学旅行を終えて、特に印象に残ったのはスキー実習です。私はスキーを体験したことがありませんでした。そんな私にスキーを教えてくださいましたのがスキーの先生でした。先生はいわゆる『習うより慣れろ』を実践している方ででした。基本的なことを教えて、実際にコースを滑ってみなながら慣れていく実践的な教えで、正直もっと丁寧に教えてくれる人が良かったと思うことも何度かありました。でも、何度転んでも、叱責しながらも起き上がるのを手伝ってくれたり、何でも激励の言葉を飛ばしてくださりました。そのこともあって、最終日にはスキー 3 日目とは思えないくらい上手く滑れていました。その頃にはこの先生で良かったと思っていました。私はこの体験から 2 つのことを学びました。一つは苦しいことも諦めずに挑戦することの大切さです。もう一つは『習うより慣れろ』の考え方は時には必要であるということです。私はこれらを勉学にも活かしたいです。



5 組女子

移動中やホテルでの集団行動、スキー講習での特別な体験、数ヶ月前から自分たちで計画を立てた班別自主研修など非日常の連続で、自分の人生の中でも思い出に残る濃い 4 日間となりました。その中でも私が一番印象に残っているのは初日にあったコミュニケーションプログラムです。初めはあまり乗り気ではなく、早朝からの長距離移動とスキー講習での疲れもピークになっていました。ですが実際に親しい友人から初めましての人との交流で心や体が軽くなった気がしました。名前も知らなかった人と息を合わせられるように互いに意見を出しあったり、相手の表情を見るようになりました。たった数十分でこんなに見方が変わるのかと驚きました。最後の話にもあった様に将来必ず私を助けてくれる武器になると思います。これからも色々な人との交流を大切に、私のコミュニケーションを広げていきたいと思いました。

他にもたくさんありますが あと二人分だけ紹介をします

チャレンジャーになる！

この修学旅行を通して大きく学んだことがあります。それは挑戦することの大切さです。僕のスキー実習は、正直不安な気持ちいっぱいでした。背中が曲がり、重心は後ろにある状態で、怖がりながらゆっくり滑ろうとすればするほど、こけてしまいました。しかし、受動的に今のまま滑るだけでは何も変わらないと思います、背中を伸ばし重心を前にかけて、勇気を持って滑ってみると、簡単に滑ることができました。

このとき僕は、これは人生と同じだと感じました。何事も、怖いと思って受動的になり自分から行動しなければ、何も得ることはできないが、主体的に動けば、良い結果に導かれることに気付きました。このようなことに気付くことができたのは、この修学旅行のお陰です。

今回、修学旅行に参加してさまざまな経験を得ることができて良かったです。

修学旅行では楽しかったと思う思い出より、多くのことを学ぶことができました。規則やルールを守るのは当然のことだけど、それを当然にできなければいけません。

決められた時間・出来事を、甘い気持ちでやってしまっている事が普段の生活に現れると思います。だから、これからは自分の甘い気持ちに負けず、今後の生活態度や勉強・部活に生かしていくべきだと思います。

修学旅行では、楽しむべきは楽しむべきだと思うけど、その前提として守るべき事は守らなければいけません。学校も同じで、遊びにきているわけではなく学びに来る場所であることをもう一度強く感じました。

修学旅行の経験を通して、もう一度自分を見つめ直してこれからにつなげていこうと感じました。

また、親や先生方に感謝して、学校に行けているのが当たり前ではないと言うことを忘れず、今後の学校生活を過ごそうと思いました。

今回紹介した生徒の捉え方の文章ですが、入学以来取り組んできた、eポートフォリオの記入から抜粋したものです。担任の先生方が、生徒の承認依頼の報告をチェックして下さっている中で、紹介した以外にも、数多くの紹介したい報告がありました。主体的な良い経験からは、具体性を持った真剣なレポートに変える力が、四十二回生にはあることを再確認できました。

これらを、自己の進路実現に結び付けるには、限られた時間の中でいかに今回見せた力を発揮できるようにするかです。

未知なるものに対する経験、例えば、今回のスキー講習等から多くの者が感じた、主体的な行動・積極的な失敗から得られた前向きな分析・仲間との協働性・励まし合い・挑戦・再挑戦・トレーニングが、学校生活・人生・社会でも自分達が経験したことも同じだと記入した者たちから、行動の変化が見られ、さらに周囲へ発信されていく姿が増えていくものと信じて、私達も目の前の生徒に

「これを伝えたい、これをしてやりたい」

気持ちを忘れることなく、叱咤激励を続けます。

そして、一年後の今に、譲れない第一志望の話ができるように、お互いに切磋琢磨しましょう。

その努力の積み重ねが、一年後の今の自分を生かすべく、冷静な分析・次への的確なステップを、効果的に踏むことができるでしょう。

常に自分の思う結果を得られることは難しい

だが その時に次に生かす道を進めば

次のタイミングでチャンスは生まれる

四十二回生生徒会が掲げてくれている

「困難は機会の中にある」

四十二回生が相高を振り返ったとき、この言葉の意味が深く感じられるように、自分自身に妥協を作らず、

「日々是挑戦」

すでに真っ只中にある、三学年零学期を闘いましょう。

二月以降の予定

二月

五日(水)	全校読書会
八日(土)・九日(日)	大学入学共通テスト早期対策模試 未受検者は、十一日(火) 必要な欠席がないよう、体調管理を マラソン大会
十四日(金)	自然科学コース推薦入試
十七日(月)	自然科学コース非常勤特別講義
十九日(水)	自然科学コース非常勤特別講義 甲南大学
二十日(木)	月曜六限十木曜七限
二十二日(土)	自然科学コース推薦入試合格発表
二十四日(月)	天皇誕生日振替休日
二十五日(火)	三月三日(火) 学年末考査
二十七日(木)	卒業式予行
二十八日(金)	卒業式

三月

四日以降	短縮授業(一・二・五・六限)
四日(水)	球技大会
五日(木)	球技大会予備日
十日(火)	自然科学コース非常勤特別講義
十一日(水)	成績会議
十二日(木)	成績不振者は呼び出しあり 複数選抜試験 十四日まで登校制限あり
十六日(月)	二十日分代休
十七日(火)	大学別ガイダンス(三・四限)
十八日(水)	大学合格者体験発表会(四限)
二十日(金)	教科書・副読本購入 写真撮影(五組は十九日) 午後自然科学コース課題研究発表 (なぎさホール)
二十三日(月)	終業式
二十四・二十六・二十七日(火・木・金)	三月補習あり

追記

今号では、十二月に開催されたインスパイア事業の神戸大学留学生との生徒レポートも紹介する予定でしたが、修学旅行で満載となりました。次の機会にでも、紹介できればと思います。悪しからず。